

この報告書は、災害教訓の継承に関する専門調査会の下に設けた小委員会において検討され、平成19年3月12日に開催された同調査会で承認されたものである。執筆は、

(主査) 安藤 雅孝	名古屋大学環境学研究科教授
伊藤 和明	NPO法人防災情報機構会長
小澤 邦雄	静岡県地震防災センター所長
木村 玲欧	名古屋大学環境学研究科助手
斎藤 弘之	安城市歴史博物館学芸員
鈴木 康弘	名古屋大学環境学研究科教授
羽賀 祥二	名古屋大学文学研究科教授
林 能成	名古屋大学環境学研究科助手
吉村 利男	三重県生活部文化振興室県史編纂グループ副参事

の各委員及び

杉戸 信彦	名古屋大学大学院環境学研究科 附属地震火山・防災研究センター研究員
-------	--------------------------------------

が行い、担当は以下のとおりである。

はじめに (安藤雅孝)

第1章 東南海地震の災害の概要

第1節 東南海地震 (安藤雅孝)

- 1 南海トラフ
- 2 地殻構造と深発地震面
- 3 巨大地震の歴史
- 4 1944 (昭和19) 年東南海地震
- 5 東南海地震の余震
- 6 東南海地震の震源モデル
- 7 修正震源モデル

第2節 東南海地震による災害 (林能成)

- 1 被害の全体像
- 2 愛知県の震度分布と被害の特徴
- 3 三重県の震度分布と被害の特徴
- 4 静岡県の震度分布と被害の特徴

第2章 東南海地震の被害と救済

第1節 三重県の被害・救済 (吉村利男)

- 1 日記・体験記に見る地震・津波の発生状況
- 2 統計に見る被害状況
- 3 被害救済策とその復興

第2節 愛知県の被害・救済

- 1 地震の体験 — 中島飛行機製作所半田工場にいた学徒たち（羽賀祥二）
- 2 被害状況（羽賀祥二）
- 3 救済への動き（羽賀祥二）
- 4 葬祭と慰霊（羽賀祥二）
- 5 三河地方の被害と救済（斎藤弘之）
- 第3節 静岡県の被害・救済（小澤邦雄）
 - 1 はじめに
 - 2 中遠地方にみる軟弱地盤と家屋倒壊被害
 - 3 体験談に見る中遠地方の被災の実態
 - 4 旧清水市の被害
 - 5 旧清水市を除く静岡県中部・東部の被害
 - 6 天竜川流域以西の被害
 - 7 津波被害
 - 8 救済
- 第4節 長野県諏訪市の被害 ～市民が発掘した震災の実相～（伊藤和明）
 - 1 報道管制下の激震
 - 2 「東南海地震体験者の会」の活動
 - 3 常時微動調査
 - 4 被害の全貌が明らかに
- 第3章 東南海地震のインパクト
 - 第1節 津波の被害（木村玲欧）
 - 1 津波の体験談・郷土史
 - 2 津波の形容
 - 3 津波に追われる・浸る・流される・飲み込まれる
 - 4 津波から逃げる
 - 5 津波をどう察知したのか
 - 第2節 その後の対応（羽賀祥二）
 - 1 復興への歩み
 - 2 「空襲は地震の連続だ」
 - 3 災害情報の管理
 - 第3節 想定東海地震との関係（安藤雅孝）
 - 1 東海地震提唱の経緯
 - 2 大震法成立の過程
 - 3 地震空白域とは
 - 4 駿河湾のプレートの沈み込み
 - 5 前兆現象
 - 6 地震予知情報
 - 7 まとめ
- 第4章 三河地震の災害の概要
 - 第1節 三河地震（杉戸信彦、鈴木康弘）
 - 1 地震の概要
 - 2 三河地震の地表地震断層

- 3 地表地震断層と震源断層モデルの関係
- 4 地表地震断層と活断層地形の関係
- 5 活断層における破壊の連鎖と三河地震
- 第2節 三河地震による災害（林能成）
 - 1 被害の全体像
 - 2 特徴的な被害分布
 - 3 被害を拡大した要因
 - 4 発光現象
 - 5 産業などへの影響
- 第5章 三河地震の被害と救済
 - 第1節 三河地震の被害と救済（斎藤弘之）
 - 1 就寝時の備え
 - 2 地震の発生と脱出
 - 3 安否確認
 - 4 救助活動
 - 5 災害援助
 - 6 復旧活動
 - 7 三河地震によるその他の被害・影響
 - 第2節 写真や絵から見た三河地震（林能成、斎藤弘之）
 - 1 碧南市原田三郎さんが撮影した被害写真
 - 2 大浜警察署が撮影した写真
 - 3 富田達躬さん撮影の写真
 - 4 宮村攝三さん撮影の写真
- 第6章 戦時下での地震
 - 第1節 報道管制の概観（木村玲欧）
 - 1 言論統制・報道管制の概観
 - 2 どのくらい頻りに報道されたのか
 - 3 どのような内容が報道されたのか～朝日新聞・読売報知新聞の場合～
 - 4 どのような内容が報道されたのか～中部日本新聞の場合～
 - 5 東南海地震発生翌日（12月8日）の報道
 - 6 東南海地震発生から3～5日目（12月9日～11日）の報道
 - 7 東南海地震発生から6～10日目（12月12日～16日）の報道
 - 8 三河地震発生翌日（1月14日）の報道
 - 9 三河地震発生から3～5日目（1月15～17日）の報道
 - 10 三河地震発生から6日目以降（1月18日以降）の報道
 - 11 まとめ
 - 第2節 報道内容
 - 1 東南海地震、三重県の場合（吉村利男）
 - 2 東南海地震、静岡県の場合（小澤邦夫）
 - 第3節 戦時下での地震についての調査（林能成）
 - 1 はじめに
 - 2 様々な困難の中でなされた調査

- 3 東京帝国大学による東南海地震の調査
- 4 名古屋帝国大学と名古屋地方気象台による東南海地震合同調査
- 5 中央気象台による東南海地震の調査
- 6 三河地震の調査
- 7 まとめ

第4節 太平洋戦争と東南海・三河地震（伊藤和明）

- 1 戦局悪化のなかで
- 2 隠された大地震
- 3 疎開学童の悲劇
- 4 制約された地震調査

おわりに ～1944東南海・1945三河地震の教訓～（全委員、執筆協力者、事務局）

資料編

参考・引用文献一覧

安藤委員は、報告書全体の確認を行った。

なお、事務局の担当は以下のとおりである。

（事務局）	荒木潤一郎	内閣府災害予防担当企画官
	及川 雅仁	内閣府防災総括担当（平成18年3月まで）
	高橋 隆一郎	内閣府災害予防担当（平成18年3月まで）
	岩間 功	内閣府災害予防担当
	金子 雅也	内閣府防災総括担当
	越智 敏文	内閣府地震・火山対策担当

平成19年3月

内閣府政策統括官（防災担当）

本報告書のとりまとめは、財団法人日本システム開発研究所に委託し、実施した。